

園長だより NO112

入園、進級から早いもので1カ月が過ぎました。初夏を思わせる天候が続き戸外では早くも水遊びに夢中になる姿がみられています。水遊びとは名ばかりで遊びこんでいくうちに泥んこ遊びに移行、昨今の夏はとても暑く、熱中症アラートの警戒が出て、戸外での活動がほぼ皆無になっています。水、泥遊びができる期間も限られているのが現状です。おおぞらの場合はほぼ1年、できる条件であれば土と水と戯れる遊びを多く経験していきます。

保護者の皆様には感謝しています。入園の案内には堂々と「汚します、汚れます」と大々的にうたっていますので覚悟の上での園生活となりますがお洗濯などの細やかな対応があつてのこと、子ども達の「やりたい、やってみたい」を実現できます。

水、土、お日様の日差し、心地よい風、微笑んでみている空、自然のあらましを思う存分、身体で感じて遊びます。どろどろになることも乳幼児期の一時のこと、お手数をおかけいたしますがご理解のほど、こころよりお願い致します。

「 保育園の洗礼 」（命を守るための大切な時期）

元気に遊んでいる子ども達をいつも、ほほえましくみえています元気な姿と反するのが体調の悪化、不良です。「保育園の洗礼」とは聞きなれない言葉ですがいつの頃からか入園時期の4月にメディアを中心に使われるよう

なった言葉です。

保育園から「お熱が〇〇度ありますのでお迎えにきていただけますか」という連絡、保育園に入園している子がいる家庭なら、かなりの割合でこんな連絡が入った経験があることと思います。

入園直後に風邪、下痢、嘔吐などの感染症にかかります。家庭中心の生活から集団生活に入った途端に大袈裟ですが次から次へと感染症にかかる、時には大人もそれをうつされて悪化してしまうこともあります。やっと職場復帰したばかりなのに復帰早々に早退、欠勤が続いてしまうことに悩まされることを「保育園の洗礼」と世間では言っています。

保育園でも先週から発熱、下痢が続く症状などで欠席の児童が出ていました。感染力の強い場合は瞬く間に広がっていきます。

入園当初は新しい環境に慣れていく期間であり、その環境に順応しようと子どもなりに様々な神経を使っています。いつも以上に泣くこともあります。他児との生活に緊張感をもっている子もいます。大人（保護者も保育者）も微細に神経を使い、受け入れた子ども達の安定した生活を作ろうと力を注ぎます。

大人も子どもと共に新しい環境での緊張や普段以上の頑張りから心身ともに疲労が蓄積されます。「保育園の洗礼」と共に保育園で働く若年層の保育士にも「洗礼」に類似したものがあります。新社会人の洗礼、ことに保育現

場に就職した方々は保育（保育に準ずる業務）のほか子どもの理解、保護者対応、様々な事柄を学んでいく、実習ギャップといわれるものもある、実習の時は毎日楽しく過ごせていたのに実際は異なり多くの学びとそれに付随した責任がのしかかかる、入園した子ども達と同じように長時間、長期間、仕事に従事していく体力を養わなければならない。体力に自信はありますという学生も現場に出てみると心の消耗があり体調を崩すケースも多くあります。子ども達が感染すると同時に保育士も同じように感染する。発熱で欠勤することもある。当然、欠員が出るところを限られた人員でカバーする。若年層の保育者は1～2年以内に子どもと共に感染しより強い体力（免疫）をえていく。

集団生活に入り、子ども達が体調を崩す要因はいくつか考えられる。感染症に対する免疫の蓄積は少ない、風邪だけでも数百種類のウイルスがあるともいわれている。様々なウイルスの免疫は持っていないので当然、感染しやすくなってしまう。乳幼児の身体は丈夫ではなく弱いものである。現代はワクチンなどの進歩により低年齢児の死亡率は下がっているが根本は幼児期に移行するまでは脆弱な身体ということ、集団生活に入ると多くの子ども達との接触機会がでてくると、子ども同士の密接な環境であり、感染症が広がりやすい環境にあること、ことに乳児については自

、衛生管理に努めていくことはできない。

手や目や鼻、口などを無意識に触ったり、なめたりする、玩具などの消毒や手洗い、水分補給など保育士は十分に気にかけて対応しているが感染リスクを0にすることはできない。

入園当初の子ども達や乳児クラスの子も達は感染経験を積み上げ自分自身の身体を守る作用を獲得していく過程にあります。

「保育園の洗礼」といわれるものは避けては通ることはできません。でもいつまでも続くものではありません。個人差はあるものの幼児クラスになると欠席も少なく毎日を元気に過ごす子ども達は多くいます。親も子も無理せず過ごしていくことが大切です。

もうすぐゴールデンウィーク、毎年、職員の中には連休中、発熱し寝込んでいましたというケースが出ていますがこの1カ月、子どものために生活を共にし安定した環境を作ろうと尽力してきたのでお休みをおおいに謳歌していただき、連休明けからもいきいきとした生活につなげていただきたいと思うばかりです。連休はご家族でいろいろな計画はあると思いますが程よく余力を残し、お子さんとも疲れを残さず、体調の維持管理にこころ配りのご配慮をいただければ幸いです。

（おおぞら保育園 園長 廣部信隆）

※「洗礼」と言う言葉を使いましたがこの言葉に私は違和感を感じます。子どもが健康でいられるための大切な通過点と考えています。

2025.5.1

